

紙 印 無

実用新案登録願 6

(1,500円)

3,000円

昭和50年8月6日

特許庁長官 斎藤 英 殿

1. 考案の名称 新式自動車の運転装置

2. 考案者

住所 東京都港区新橋3-14  
氏名 新橋 英 氏

3. 実用新案登録出願人 新橋 英 氏  
住所 東京都港区新橋3-14  
氏名 新橋 英 氏

4. 代理人 新橋 英 氏  
住所 東京都港区新橋3-14  
氏名 新橋 英 氏

5. 添付書類の目録

- |          |     |
|----------|-----|
| (1) 明細書  | 1 通 |
| (2) 図面   | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状  | 1 通 |



同時に提出した実用新案登録願(1)のものを援用する

照合済

50-108623

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

釘打機等の打込み用ガイド

### 2. 実用新案登録請求の範囲

ノーズに沿つて上下動自在となるようにコンタクトアームに関連配設したホルダの先端に軸方向に突出する一対のアタッチメントを着脱自在に配設して成る釘打機等の打込み用ガイド。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は釘やステープル等の綴着具を打込む工具に適用して有用な打込み用ガイドに関するものである。

従来より建築用内外装材を対象物に対し釘やステープルで打付けるために自動釘打機や自動タッカー等の装置が用いられている。

これらの装置の一例としては、装置本体内に組込んだ加圧空気式のシリンダ・ピストンから成る駆動機構によりドライバを作動させ、ノーズ内より釘やステープルを一本ずつ打出すようにしたものが知られている。

ところで、この種従来のものでは対象物に対してノーズ先端すなわち釘等の打出し口を正確に位置合わせしたり、特に対象物表面に凹凸があるようなものの山部や谷部或いは段部等に沿つて釘等を打込んだりするのに極めて不便であつた。

そこで、本考案は対象物表面が凹凸状となつていたり、或いは狭い隙間内に釘等を打込む場合においても容易に正確な釘等の打込み作業を行ない得るようなガイドを提供しようとするものである。

本考案にかかる釘打機等の打込用ガイドはノーズに沿つて上下動自在となるようにコンタクトアームに関連配設したホルダの先端に軸方向に突出する一对のアタッチメントを着脱自在に配設して成ることを特徴とするものである。

以下これを第1図から第3図に示す一実施例について説明する。

1はホルダであり、中央部には軸方向に貫通するノーズ挿通穴2が開設されている。このノーズ挿通穴2は上記ホルダ1を図示しない釘打機に取り付け釘の打込みを行なう場合に釘打機のノーズ

が第1図中上下動自在に挿通されるようになつて  
いる。

また、上記ホルダ1は図示しないが少なくとも  
釘打機のコンタクトアームに直接或いは間接的に  
関連結合され、すなわちホルダ1をノーズに沿つ  
て押し上げるときにはコンタクトアームがこれに  
伴ない押し上げられ、或いはコンタクトアームが  
ノーズに沿つてノーズ先端方向に押し出されると  
ときにはこれに伴なつてホルダ1もノーズ先端方向  
に摺動されるようになつてゐる。

そして、上記ホルダ1の先端面3には一対のア  
タッチメント嵌着用の穴4が前記ノーズ挿通穴2  
の両側に軸方向に開設されており、この穴4の中  
途部内周壁には小孔又は凹状の係合部5が形成さ  
れている。また、6は上記各穴4内に嵌着されホ  
ルダ1の先端軸方向に突出するアタッチメントで  
ある。

このアタッチメント6は硬質ゴム、合成樹脂等  
により軸状に形成され、突出端6a部分が対象物  
Aへの当接面となる。そして、図示の例ではこの

アタッチメント 6 の中途部両側には前記係合部 5 に対応係合する突起 7 が突設されており、また、基端中央部には膨出部 8 がさらに先端中央部には凹状切欠き部 9 が刻設されている。したがって、アタッチメント 6 を基端側より上記穴内に挿入し嵌着する場合にはアタッチメントの突出端には切欠き部 9 が位置し（第 3 図(イ)参照）、またアタッチメント 6 の先端側より上記穴 4 内に挿入し嵌着する場合にはアタッチメント 6 の突出端に膨出部 8 が位置する（第 3 図(ロ)参照）というように一つのアタッチメントのホルダ 1 への取付け方向を変えるだけで二種類の形状のアタッチメントとして使うことができる。

また、アタッチメント 6 の前記突起 7 の突設位置を基端又は先端のいずれか一端側に片寄らせておけば、上述の如くアタッチメント 6 のホルダ 1 への取付け方向を変えるだけでホルダ 1 の先端方向へのアタッチメントの突出長さを変えることができ釘の打込み深さを調整することもできる。

さらにまた、各穴 4 , 4 に嵌着される一対のア

タッチメント 6 の一方のものの長さを長寸とし、他方のものの長さを短寸としたものを用いる場合には第 4 図の如く段状部等に正確に位置合せすることができ。

そして、上記アタッチメント 6 はホルダ 1 に二本突出配置されているので波形状板材等の山部に釘打ちを行なうときにはこれら二本のアタッチメント 6 を山部の頂部にまたがせるようにし、或いは谷部に釘打ちを行なうときには谷底部内に挿入することにより一つのガイド装置により容易に各種表面形状の対象物 A への正確な釘打ち作業を行ない得るものである。

また、第 5 図はアタッチメントの着脱機構を上記実施例と異なる構成としたものである。すなわち、この例ではホルダ 1 の先端面 3 より軸方向に二本の柱体 10 を突設して置き、またアタッチメント 6 の一端には軸方向穴 11 を刻設しておき、これら柱体 10 に上記穴 11 を嵌合離脱させることにより着脱し得るようにしたものである。

さらにまた、図示しないがホルダ 1 とアタッチ

メント 6 間に雄ネジと雄ネジを配設し、これらの螺合関係により着脱自在としても良い。この場合には螺合寸法を変えることによりアタッチメント 6 の突出長さを可変し得る。そして、この場合、さらにアタッチメント 6 とホルダ 1 間に図示しないスペーサを介在させるようにしても良い。

上記構成にかかる本考案においては釘打ち込み対象物への当接面が二本脚状に突設されたアタッチメント先端に配設されているので、狭い間隙内や凹凸状表面であつても容易正確に釘等を打込むことができる。

なお、本考案は上述した各実施例に限定されるものではなく、ノーズに沿つて上下動自在となるようにコンタクトアームに関連配設したホルダの先端に軸方向に突出する一対のアタッチメントを着脱自在に配設して成る釘打機等の打込み用ガイドであれば他の構造であつても良い。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の一実施例を示す要部縦断面図、第 2 図は底面図、第 3 図は異なる使用状態の要部

側面図、第4図は他の実施例を示す要部縦断面図、  
第5図はさらに他の実施例を示す要部縦断斜視図  
である。

1 ... ホルダ

4 ... ホルダ嵌合穴

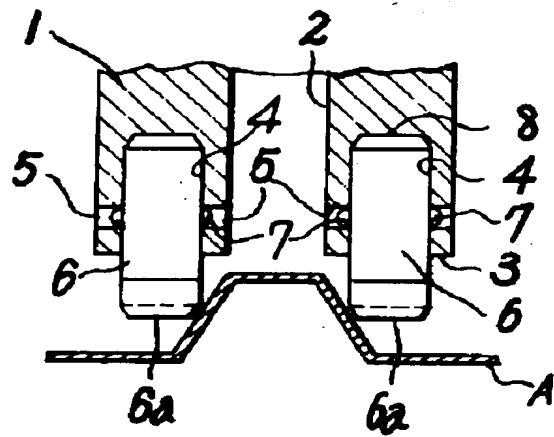
6 ... アタッチメント

実用新案登録出願人      マックス株式会社

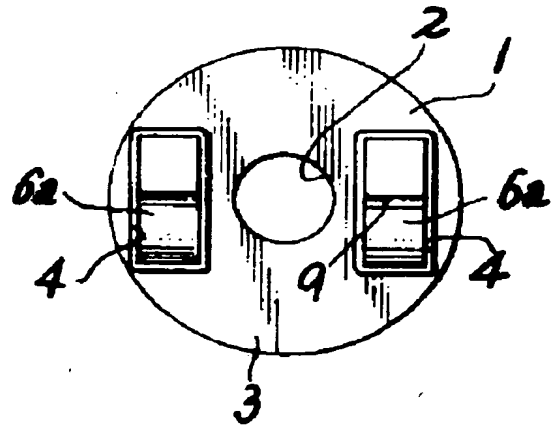
代理人      弁理士      小      池      晃



第 1 図

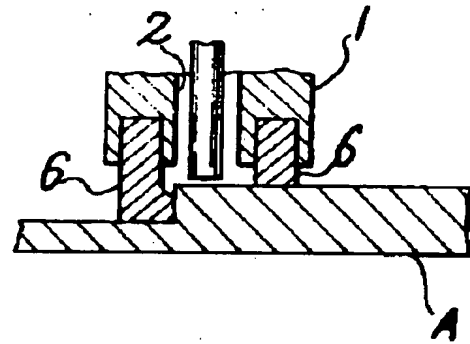


第 2 図

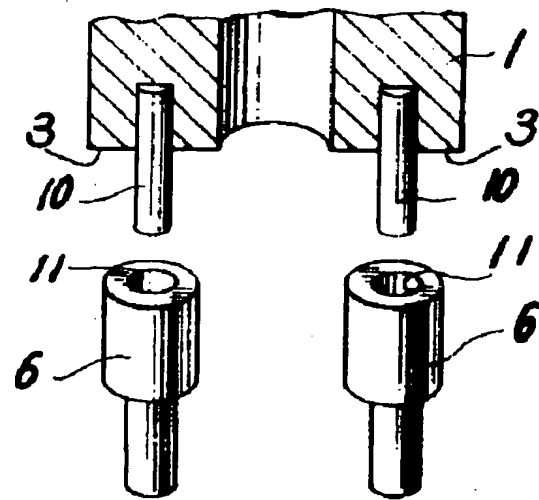




第4図



第5図



実用新案登録商標人 マックス株式会社  
代理人 舟橋士 小 池 男